

## コロナ禍における千葉県立美術館の教育普及事業への取り組みについて

千葉県立美術館 普及課長 鈴木敬子

昨年度、当館では新型コロナウイルスまん延による影響として、緊急事態宣言発出による臨時休館が2度ありました。また教育普及事業に関しては、7回のワークショップのうち6回が中止、6種類ある実技講座はすべて中止、学習支援では学校向けを中心としたビルダーカードや複製画などの学習キットの貸出は1回のみ、その他の出張授業などもすべて中止となりました。こういった新型コロナウイルスの状況を受け、今年度の教育普及事業の計画は、多くの事業で昨年度より募集人員を半分に減らすなどの対処をしました。

私自身は、昨年度は他の県立館に勤務しており、当館普及課への勤務は今年度4月からになります。昨年度の職場で行った様々な新型コロナウイルス感染防止に関する対策を元に、緊急事態宣言が明けてすぐの4月、赴任してまず普及課で着手したことは、コロナ禍における施設利用に向け、講堂やアトリエの定員の見直し、展示室の入館者数の見直しでした。

講堂やアトリエでは、公益財団法人日本博物館協会が発表した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（令和2年9月18日）に従い、座席間を1メートル以上を空け、またアトリエ用にアクリルパーテーションの購入も行き、作業机に2名座れるようにセットしました。

展示室では、単純に部屋面積や壁面の距離ではなく、現実に即し、作品ごとに見学する人を1名にしぼった導線により、1作品に人が集中しないようにし、密を避けました。これらの定員の見直しを元に、当館を創作活動の発表の場として活動する県内の美術団体に向けて出している「千葉県立美術館における新型コロナウイルス感染拡大防止策と施設を利用される皆様へのお願い」を改訂し、展示室や講堂、研修室の利用にお

ける新型コロナウイルス感染防止の対策などの徹底を図りました。

一方、体験事業の中で不特定多数の参加によるワークショップの実施に関しては、時間ごとに人数を限った当日予約制に変更し、体験を希望されている方に門戸を広げつつ、体験者や指導者、職員も感染から守りつつ実施しました。まん延防止等重点措置と緊急事態宣言発令中は、幼児を含む子どもが参加者の中心となるワークショップは、感染予防の難しさがあるため中止としましたが、実技講座はその期間中でもコロナ対策を徹底していたため、募集を行いました（参加希望者が少なく、実施には至りませんでした）。尚、中止になったワークショップの代わりに、当館ホームページ内「おうちでアートを楽しもう」コーナーに「チーバくんのモバイルをつくろう」を期間限定で開設しました。

また、学習支援である学習キットの貸出も、ウイルスが消失する期間を空けた上で実施しています。

7月からは、4月に実施した展示室の定員を元に、団体見学の事前予約の受付を開始しました。一般の入館者数も考えた上で、団体入館者数の上限設定を行い、現状では県外に出ることが難しい多くの学校団体に、利用していただいています。

当館普及課では、今年度、コロナ禍における教育普及事業に関して歩みを進めました。今後、このコロナ禍の状況はいつまで続くかわかりません。そしてアフターコロナにおいても、展覧会をはじめとする教育普及事業が縮小したり、歩みを止めることがないよう、今後とも状況に応じて対応を進め、多くの方の美術館の利用を進めていきたいと思っています。

- コロナ禍における千葉県立美術館の教育普及事業への取り組みについて… 1
- 感染症拡大防止対策を講じた中での学校対応… 2
- 新型コロナウイルス流行下における体験活動について… 3
- コロナ第一波後の再開に向けた市川自然博物館の取り組み… 4
- 新型コロナウイルス感染症の影響と対応—野田市郷土博物館の事例—… 5
- 春から秋の催し（4月～9月）… 6
- 展覧会案内… 7
- 日誌抄・編集後記… 8

## 感染症拡大防止対策を講じた中での学校対応

千葉県立中央博物館 上席研究員 大野将史

千葉県立中央博物館では新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として令和2年3月3日から5月25日まで臨時休館となっていました。令和2年5月26日より個人の展示見学に限って本館を再開したのですが、年明けの後、令和3年1月13日より3月21日まで再び臨時休館となってしまう、再開できたのは令和3年3月23日からでした。再開館により、個人での展示見学はできるようになりましたが、団体利用や講座・観察会、講師派遣などはできない状態が続いていました。

この様な中、学校対応については日本博物館協会のガイドラインや千葉県のガイドラインを遵守しながら、利用制限があっても博物館を利用していただける方法がないか、検討を続けてきました。まず、第一に目指したのが休館中であっても博物館を学習活動に利用していただくために、ホームページの充実やオンライン講座の受付、学習キットの貸し出し再開です。第二に目指したのが視覚障害や知的障害などで、学習活動のために展示物に触れることが必要不可欠な児童生徒の支援再開です。第三に一般団体の利用に先立ち、学校団体の見学再開を目指しました。

令和2年3月より、休館中にも博物館を利用していただくために「デジタルミュージアム」や「おうちで中央博」などのコンテンツの充実を図ってきました。こちらはホームページから利用できるため、休館していても利用することができます。各研究員がコロナ禍でも利用できる学習教材を考案したり、これまでに制作したコンテンツから家庭でも利用できそうなものを紹介したりと、工夫してきました。また、オンライン講座については学校の先生方の要望を聞きながら一緒に授業の内容を考え、オンラインツール（Zoom）を使った遠隔授業を行うことができました（図1）。学習キットについては返却されてから、次の貸し出しまでに期間を空けることで感染症拡大防止対策を講じ、貸し

出しを再開することができました。今後博物館がコロナ以前のように利用できるようになって、これらの工夫については遠隔地の学校などを主な対象として、時間をかけずに博物館を利用していただく方法として、効果的に広報を行っていきたいところです。

展示物に触れる学習活動については、研修室を使って一般来館者と場所を区切り、物にふれた後は必ず感染症拡大防止対策として消毒を行うことで、学習活動を再開することができました（図2）。ふれる物の共有を避けるために教材が多数用意できる標本やレプリカに限られること、活動の性質上参加できる人数が限られることが今後の課題となります。



図2

学校団体については、見学日を平日に限ることと、同時に入館する学校は1校に限ることと、令和3年7月1日より学校団体が見学できるようになりました。令和4年1月現在、博物館内に昼食場所を確保できていないことや、見学は可能であるが、見学しながら研究員に質問したり研究員からの解説を受けられなかったりすることが課題となっています。

これまで、緊急事態宣言により休館となったり、再開館しても感染者数が増えて学校受け入れについて検討を進められる状況でなくなったりすることがありました。また感染症拡大防止対策を講じた中で学校利用について館内で検討を進めるうちに、県のガイドラインや日博協ガイドラインが変更となり、一から検討し直すこともありました。それでも課題を一つずつ乗り越えていくことで、学校団体の利用を少しずつ広げていくことができました。今後も感染症拡大防止対策を徹底しながら、博物館としてできることを探っていきたいと思います。



図1

# 新型コロナウイルス流行下における体験活動について

千葉県立房総のむら 学芸員 高原伸允

房総のむらは年間約400種類もの体験や実演等を行う体験型の博物館です。このため新型コロナウイルス感染症の流行は、人を介して行う体験活動に非常に大きな制約をもたらしました。本レポートでは、コロナ下での体験実施の方法やその現状と課題について報告します。

## 1. 新型コロナウイルスの影響について

当館の体験活動の受け入れは、来館当日に体験できる「当日体験」、事前に予約して申し込む「予約体験」、主に学校団体が利用する「団体体験」があります。

第1波の新型コロナウイルスの流行により、令和2年3月3日から5月26日まで臨時休館した後、県の指針により来館者の受け入れは、見学のみに対応となりました。その後、感染状況が落ち着くに従い7月22日より「当日体験」、11月1日より「予約体験」を再開しました。しかし、再び緊急事態宣言が発令され、令和3年1月9日から3月22日まで2度目の臨時休館となりました。再開後は、再び「当日体験」からスタートし、その後はすべての体験・実演を見直して、感染対策を考慮した体験を実施しています。

## 2. 体験活動における感染対策について

臨時休館後の見学のみの際には、園内の施設は基本的に外からの見学とし、実演を見学する場合には職員から2mの距離を確保しました。7月に体験を再開する際には、体験場所が園内のさまざまな場所にあるため、それぞれの体験ごとに感染防止対策を行いました。しかしどの体験においても、1回の定員は体験場所の広さを考慮したうえで密にならない人数に設定し、また毎回の体験ごとに使用した道具、机・イス等の消毒を行い、体験者には体験前の手の消毒をお願いしました。このほか1回の体験時間の長いものや指導の際の密着度が高いものは見送りました。入館者には問題なく受け入れられたものの、定員が減り、体験ができない方

がでてきました。11月に「予約体験」を再開するなど、感染状況によってその都度、対応を調整しています。

## 3. 学校団体の受け入れと「団体体験」について

令和3年7月より学校団体のみ1日400名を上限として受け入れを再開しました。さらに令和4年2月からは学校団体の体験についても再開しました。児童間の距離を少なくとも1メートル確保するなどの調整をしたうえで、体験時間を短縮して体験回数を増やし、より多くの児童が参加できるようにしています。再開にあたっては職員同士でリハーサルを行ったうえで、令和2年12月には小学校数校の協力の下、体験の試行も行いました。

## 4. 休館中の研修について

これまで新型コロナウイルス流行下で2度あった臨時休館ですが、最初の臨時休館中は、それぞれの部署ごとに体験の準備や研修を行いました。しかし緊急事態宣言後は在宅勤務や交代制勤務等で個々にせざるを得ない状況になりました。2度目の臨時休館中は、部署を跨いだ研修を積極的に行いました。他の部署で実施されている体験・実演は分かっている、内容まではなかなか把握しづらいところがありました。そこで相互に研修を行うことで、他の部署の実施内容について理解を深め、自分たちの体験・実演へと反映させていきました。また園内及びその周辺の遺跡等について研修を実施し、来館者へ具体的な情報提供ができるようにしました。

## 5. 現在の体験状況について

房総のむらでは引き続き、感染防止対策を行いながら体験を実施していますが、体験を再開したころと比べると状況が変わってきていることもあり、1回の体験人数や回数などを見直しています。令和4年度は可能な限り、新型コロナウイルス流行前に戻せるよう体験や実演の準備を行っています。しかし執筆時点で、オミクロン株が流行するなどなかなか難しいところも

あります。一刻も早く終息し、以前と変わらぬ体験活動ができることを願いつつも、この状況の中で出来る限りのことを行っていく毎日です。



令和2年6月時点での実演の様子



園内の展示を用いた研修の様子

## コロナ第一波後の再開に向けた市川自然博物館の取り組み

市川自然博物館 学芸員 金子謙一

市川自然博物館（以下、当館）は、新型コロナウイルス感染拡大のいわゆる第一波（令和2年1月から6月）の際、国の1回目の緊急事態宣言（4月7日）に先立つ2月27日から臨時休館に入り、宣言解除（5月25日）後の6月9日より開館時間を短縮して再開、7月1日より通常態勢に復帰した。ここでは、再開を控えた中で取り組んだ感染予防対策と再開後のできごとについて、現場のリアルを伝える意図を込めていくつか書いておきたい。

### ■日本博物館協会ガイドライン

日本博物館協会が発表した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（以下、ガイドライン）は、その内容をすべて実行することが当館には難しく、ガイドラインにも「直ちに対応・導入することは難しい事項も含まれている」「必須条件ではありません」と書かれていたため、ガイドラインの内容を目安としたうえで館独自に対策を考えることにした。ただガイドラインの存在は重要で、職員ひとりひとりのコロナに対する認識に差がある中で、対策に熱心な職員とそうでない職員をまとめる根拠として活用した。

### ■展示ケースの消毒

展示ケースのガラス面について、ガイドラインの記述は、規制線を張ってお客さんが手を触れないようにした上で、ガラス面の清掃業務に従事する人の感染防止のために消毒は徹底しなさい、と読める内容だった。だが、ケースの中のヘラクレスオオカブトの標本を2m離れたところから見るような設定にしたところで、5歳の子どもに理解できるわけもなく、当館ではコロナ前と同じく規制なしとした。そのかわりガラス面やその周囲、手すりなどの消毒を徹底した。

### ■消毒用アルコール

消毒液の入手は困難を極めた。住宅用洗剤も試みたが、水拭きが必要なことや、作業者の目や喉が痛くなってしまったことから再開後すぐに断念した。アルコールについては通常の入手ルートは全滅だったが、醸造

会社が販売する食器・調理器具用のアルコール消毒液を入手することができた。この製品は厚労省が推奨するアルコール濃度ではなかったため会社としてはコロナ対策には使えないとしていたものだったが、濃度的に有効であるとの実験結果をネット上で得ることができたため使うことにした。価格もコロナ前と同じであった。当時は現物を押さえることが最優先だったので、とにかく現金で購入し続けた。結局、しばらくは公費を使うことができなかった。使用量は月10ℓほど。

### ■3密回避

いわゆる3密対策として、まずフロアのレイアウトと動線を見直した。椅子やソファをすべて撤去し、ハンズオン展示も休止した。当館の場合、ソファがあると家族連れが「じゃれあう」ことが多く、感染リスクが高いと判断した。また、おむつ替えコーナーを通気が悪いトイレ付近から展示室入り口に移動した。展示室は自由動線だったものを一方通行とし、生き物の飼育展示に人が集中することを避けるようにした。

換気については、空調が閉鎖系であることから排煙窓と非常扉の開放で対応した。また、大型の排風機が入手できたので非常口に設置し、大きな換気扇として利用した。窓を開けたため、再開直後はちょうど発生期にあたったマイマイガが館内を飛び、秋にはイヌシデの実がくるくる落ちてきた。館内展示であるにもかかわらずフィールドミュージアムのテイストが図らずも加わってしまった。

再開直後には急な雨の日があり、その時は当館が立地する動物園から大勢のお客さんが展示室に避難してきた。土砂降りの中、人数制限と称して追い出すこともできず、開放していた窓や扉も閉めたため、空調が閉鎖系であることをひたすらお客さんに叫ぶことになった。

### ■現状

本稿執筆時点で、基本的な感染対策は変更なく継続している。物品の消毒は無意味との指摘が出る中、消毒作業はやや簡素化した。



再開前に考えた消毒スタイル。再開してから見直し、もう少し軽装になった。



レイアウト変更で展示室入り口に来たおむつ替えスペース。



大型の排風機。キャスターがついているので非常時はすぐに移動できる。

## 新型コロナウイルス感染症の影響と対応 —野田市郷土博物館の事例—

野田市郷土博物館 主任学芸員 柏女弘道

新型コロナウイルス感染症の流行開始から約2年が経過し、今なおその影響は続いています。本稿は、市町村立の郷土博物館の事例として野田市郷土博物館の新型コロナウイルス感染症の影響と対応について現場の学芸員の目線で記録し、他館や今後の参考となることを願うものです。

### 展覧会等事業への影響

当館では令和2年2月29日から6月7日まで及び令和3年9月1日から9月30日までの2度の期間、感染症対策のため臨時休館となり、展覧会においては、会期中での終了(2回)や、会期の急遽延期(1回)などの影響が出ました。

臨時休館の判断や事業の実施の可否は、市の新型コロナウイルス感染症対策本部会議で大枠が決定され、それに従う形が取られました。

講座や講演会などの事業も大きな影響を受けました。当館には講座室がなく、同敷地内にある野田市市民会館(旧茂木佐平治邸)の和室を会場としています。しかし、市の対策本部会議において、公民館等の部屋に定員制限が設けられ、市民会館もその対象となりました。講座等に使用していた最も広い3間続きの和室(計26畳)の定員が13名と定められたことにより、講師やスタッフの人数を考えると講演会などを開催することは実質的に不可能となりました。そのため、公民館の講堂を借りて開催するなどの措置をとっていますが、展覧会の関連講演会などは例年市民会館で開催していたため参加者の混乱を招いたほか、講演会前後に展示を見てもらうという相乗効果を期待しづらい点でも痛手となっています。

また、勾玉作り体験講座などは定員減らす代わりに回数を増やすことで再開してきましたが、市民会館が感染症対策により飲食禁止となっているため、茶室を利用した茶道講座などは再開の目途が立たない状態が続いています。

また、会期の変更によるチラシの刷り直しや訂正シールの貼り込み作業など、様々な作業が生じました。令和2年度特別展の関連講演会では、チラシ印刷後に申込開始日の延期を余儀なくされ、訂正シールを貼ることで対応しましたが、最終的には講演会そのものが中止となりました。



チラシに貼り込んだ訂正シール

仕方がないこととは言え、こうした作業や中止になるかもしれないという予感の中で事業を企画していくことは心理的にも負担となっています。

始日の延期を余儀なくされ、訂正シールを貼ることで対応しましたが、最終的には講演会そのものが中止となりました。

仕方がないこととは言え、こうした作

### 感染症対策

当館の感染症対策の取り組み例として、博物館ボランティアと日々の消毒体制についてご紹介します。

当館の博物館ボランティアは展示室内で受付を担当していただいております。コミュニケーションをとりながらの対応は、多くの来館者から好評をいただいております。しかし、感染症対策の中で、まさにその人との触れ合いがリスクであるということで、対応に苦慮することとなりました。

令和2年6月に最初の臨時休館が明けた後もしばらく活動を休止し、定期的に行っていた月1回のボランティア全員が集まる連絡会の中で情報交換や感染リスクを考慮した再開後の活動に向けて話し合いを行いました。再開にあたっては、周囲をアクリルで覆った小部屋を展示予算の中で作成し、活動時間を短縮した上



アクリルで囲まれたボランティア駐在スペース

で令和3年1月から活動を再開しています。

以前のように来館者と積極的な交流を図ることはまだ難しい状況ですが、活動の再開により受付の方の対応がとても良かったという声が展示室のアンケートに戻っており、今後も感染症対策とのバランスを考えながら活動が継続できるようにしていきたいと考えています。

また、日々の感染症対策として、展示室と市民会館の中で、利用者が頻繁に触れる箇所を、全職員が分担して毎日定期的な消毒を行うこととしています。学芸員は展示室を担当し、2時間に一度、入口の取っ手、階段の手すり、アンケート用の鉛筆などの消毒を行っています。もちろん消毒せずに済むようになることが一番ですが、ある種強制的に展示室の様子を定期的に確認する機会にもなっているのかなど、個人的には感じています。こうした作業においても、何らかのプラス面を個人的に探してみることも、心理的な負担を軽減するのではと思っています。

最後に、複数施設の管理による影響について触れておきます。当館は市民会館の管理も一緒に行っており、感染症対策においては、博物館よりも市民会館に関する業務量の方が大きいのが現状です。市民会館は貸部屋を行っているため、臨時休館や利用条件の変更などによる予約者への連絡や利用者への注意喚起に多くの時間がかかっています。

一刻も早い終息を願うとともに、現場で働く一人として何が出来るかを今後も模索していきたいと思っています。

## \* 春から秋の催し (4月～9月) \*

館園名・行事の種類	行 事 名	開催期間・期日	館園名・行事の種類	行 事 名	開催期間・期日
●浦安市郷土博物館	TEL 047-305-4300		●千葉県立中央博物館	TEL 043-265-3111	
展 覧 会	企画展「もっと知りたいふるさと浦安」	7月30日～8月28日	展 覧 会	苔梅苔松 -春を寿ぐ うめのきこけ-	開催中～5月8日
●国立歴史民俗博物館	TEL 043-486-0123 03-5777-8600		展 覧 会	カエル	開催中～5月15日
展 覧 会	企画展示「中世武士団-地域に生きた武家の領主-」	開催中～5月8日	展 覧 会	千葉県エビ・カニ大集合!	開催中～5月8日
展 覧 会	特集展示「亡き人と暮らす-位牌・仏壇・手元供養の歴史と民俗-」	開催中～9月25日	●千葉県立房総のむら	TEL 0476-95-3333	
●佐倉市立美術館	TEL 043-485-7851		その他イベント等	春のまつり	5月3日～5日
展 覧 会	収蔵作品展① (仮称)	4月5日～5月22日	その他イベント等	むらの緑日・夕涼み	8月6日・7日
展 覧 会	収蔵作品展② (仮称)	5月28日～7月18日	●千葉県立加曾利貝塚博物館	TEL 043-231-0129	
展 覧 会	企画展①安西水丸展 (仮称)	8月6日～9月25日	展 覧 会	特別史跡加曾利貝塚発掘調査速報展 (令和3年度調査分)	4月12日～7月3日
●山武市歴史民俗資料館	TEL 0475-82-2842		その他イベント等	特別史跡加曾利貝塚 縄文春まつり	5月大型連休期間中のうち2日間を予定
展 覧 会	開館50年～左千夫と郷土を見つめ続けて～	4月9日～9月25日	●千葉市立郷土博物館	TEL 043-222-8231	
●城西国際大学水田美術館	TEL 0475-53-2562		展 覧 会	パネル展「千葉常胤と13人の御家人たち(北関東編)」 (仮称)	5月19日～7月12日(予定)
展 覧 会	斉藤好和展(仮称)	5月17日～6月18日	展 覧 会	企画展「甘藷先生の置き土産-青木昆陽とサツマイモ-」 (仮称)	8月30日～10月16日(予定)
展 覧 会	MADE IN OCCUPIED JAPAN① アメリカに渡った陶製人形(仮称)	7月5日～30日	●DIC川村記念美術館	TEL 050-5541-8600	
●白井そろばん博物館	TEL 047-492-8890		展 覧 会	カラーフィールド 色の海を泳ぐ	開催中～9月4日
その他イベント等	春のそろばんフェスティバル2022	4月3日	展 覧 会	コレクション展示	9月13日～10月7日
その他イベント等	博物館祭り	8月7日	●流山市立博物館	TEL 04-7159-3434	
展 覧 会	そろばん絵画展	9月10日～	展 覧 会	流山小学校創立150周年記念企画展 流小150年と流山本町の移り変わり (仮称)	前期 7月16日～10月16日 後期 10月22日～12月11日
●市立市川考古博物館	TEL 047-373-2202		●成田山書道美術館	TEL 0476-24-0774	
展 覧 会	ホール小展示「市川出土の縄文土器」	開催中～7月31日	展 覧 会	田代憲三蒐集拓本と近代日本の書	4月23日～6月19日
展 覧 会	ホール小展示「市川出土の縄文土器Ⅱ」	8月5日～令和5年7月30日	展 覧 会	生誕140年中野越南とその周辺	6月25日～8月21日
その他イベント等	夏休みスタンプラリー	7月21日～8月31日	展 覧 会	千葉県書道協会役員展	8月27日～10月16日
●袖ヶ浦市郷土博物館	TEL 0438-63-0811		●野田市郷土博物館	TEL 04-7124-6851	
展 覧 会	(仮称)新収蔵資料展	5月上旬～7月上旬	展 覧 会	市民コレクション展「刀百姿-彩継せぬ日本刀の襟-」	4月9日～5月29日
その他イベント等	ミュージアム・フェスティバル	6月4日・5日	●ふなばしアンデルセン公園子ども美術館	TEL 047-457-6661	
●千葉県立関宿城博物館	TEL 04-7196-1400		展 覧 会	第13回アンデルセン公園きりがみ展	
展 覧 会	企画展「関東 塩ものがたり」	9月30日～11月27日	展 覧 会	-コンクール作品展示と切り紙の魅力-	4月24日～5月15日
●市立市川歴史博物館	TEL 047-373-6351		展 覧 会	ドット(ピクセル)アニメによる「ふたつの物語」	5月28日～7月18日
その他イベント等	夏休み体験講座(昔の洗濯体験、和綴じ本作り)	8月(日時未定)	展 覧 会	令和4年度小・中・特別支援学校「夢・アート展」	7月23日～8月4日
●千葉市美術館	TEL 043-221-2311		●船橋市郷土資料館	TEL 047-465-9680	
展 覧 会	生誕100年 清水九兵衛/六兵衛 展	4月13日～7月3日	展 覧 会	船橋市郷土資料館開館50周年企画展(仮称)	7月16日～12月4日(予定)
展 覧 会	とある美術館の夏休み	7月16日～9月4日	●松山庭園美術館	TEL 0479-79-0091	
展 覧 会	新版画 進化系UKIYO-Eの美	9月14日～11月3日	展 覧 会	猫ねこ展覧会2022	4月15日～7月31日
●白井市郷土資料館	TEL 047-492-1124		展 覧 会	十人十色のねこ絵展	8月5日～28日
講演会・講座等	古文書講座(入門編)	6月～7月頃	●茂原市立美術館・郷土資料館	TEL 0475-26-2131	
その他イベント等	夏休み体験教室	8月	展 覧 会	美術収蔵品展「新収蔵絵画展-鳩川誠一の洋画を中心に-」	開催中～5月16日
展 覧 会	令和4年度企画展「新四国巡礼と信仰者 ～東葛印旛大師講成立200周年記念～」(仮称)	9月頃	展 覧 会	テーマ展「車偶庵の民俗資料その1 絵馬と郷土玩具」	開催中～6月19日
●館山市立博物館	TEL 0470-23-5212				
展 覧 会	新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」	4月16日～6月5日			
展 覧 会	収蔵資料展「里見家断絶とその後の安房の人々」(仮称)	6月19日～9月19日			
●千葉県立現代産業科学館	TEL 047-379-2007				
その他イベント等	プラネタリウム上映会	8月5日～8月24日			
展 覧 会	展示・運営協力会主催事業「これでわかった! 未来の技術2022」	7月下旬～8月末(予定)			

詳細は直接館にお問い合わせください。

## \* 展覧会案内 \*

茂原市立美術館・郷土資料館

美術収蔵品展

新収蔵絵画展 — 鳩川誠一の洋画を中心に —

近年、新たにコレクションとして加わったにおかわせいち鳩川誠一、陸沢町在住のあさひなたかし朝比奈隆、本納絵馬四代目のやべかけい矢部華徑、王子江の作品など、計24点を初展示します。

<会 期>3月18日(金)～5月16日(月)

<休館日>年末年始(12/29～1/3)、施設点検による臨時休館日

※会期中の休館日はありません

<料 金>無料



野田市郷土博物館

市民コレクション展

刀百姿 — 彩褪せぬ日本刀の燦 —

野田市美術刀剣会の協力による刀剣展覧会。約60振の古今東西の美術刀剣のほか、名工による鍔や小柄の刀装具を一堂に紹介する。



<会 期>4月9日(土)～5月29日(日)

<休館日>毎週火曜日(祝日は開館)

<料 金>無料

松山庭園美術館

猫ねこ展覧会2022

全国から応募した猫好き芸術家の絵画・彫刻・工芸・写真などの力作が300点、美術館を埋め尽くします。今、世界中が息苦しい生活を余儀なくされておりますが、風の吹き抜ける新緑の美しい庭園で、美術館の猫スタッフ達とゆっくりお寛ぎいただきたいと思えます。展覧会を通して世の中に元気を取り戻すお手伝いをしたいと思っています。



<会 期>4月15日(金)～7月31日(日)

<休館日>月曜日～木曜日(祝日は開館)

<料 金>一般800円、中学・小学生400円

# 日誌抄

## 事務局

### ■令和3年度 総会

月日／令和3年5月20日（木）

新型コロナ感染防止のため書面開催

内容／令和2年度 顕彰

令和2年度事業報告及び一般会計、基金収支決算報告

令和2年度一般会計及び基金収支決算監査報告

令和3年度事業計画(案)及び一般会計、基金収支予算(案)

### ■第1回役員会

新型コロナ(オミクロン株)の感染拡大のため書面開催

月日／令和4年1月20日（木）

内容／令和3年度の事業実施中間報告

令和4年度 新規加盟館園について

令和4・5年度 役員・委員の改選について

理事・委員の輪番制の再考について

各館近況報告 等

## 研修委員会

### ■第1回 委員会

月日／令和3年7月9日（金）

会場／千葉県立美術館

内容／①令和3年度 事業計画について

②研修会について

### ■研修会

本年度も新型コロナ感染防止のため開催中止

## 調査研究委員会

### ■第1回委員会

月日／令和3年6月11日（金）

会場／千葉県立現代産業科学館

内容／①令和3年度 事業計画について

②研究報告会について

③紀要発行について

### ■第2回委員会

月日／令和3年7月～令和4年1月

新型コロナ感染防止のためメールでのやりとり

内容／①研究紀要掲載記事 新型コロナ対応第2回追加アンケートについて

②紀要執筆原稿依頼及び編集について

### ■研究報告会

本年度も新型コロナ感染防止のため開催中止

千葉県博物館協会研究紀要「MUSEUMちば」第47号

令和4年3月末発行予定

## 地域振興委員会

### ■第1回役員会

新型コロナ感染防止のため書面開催及びメールでのやりとり  
月日／令和3年6月

内容／①令和3年度 事業計画について

②博物館資料救済ネットワークについて

今年度中核館の確認及びブロック内担当者の確認、名簿の更新

③地域の諸課題について

### ■各ブロックの活動

令和3年8月～令和4年2月

内容／各ブロック会議の開催

### ■ブロック代表者会議

2月 書面開催予定

### ■情報伝達訓練

3月11日（金） 午後1時実施予定

## 広報委員会

### ■第1回委員会

新型コロナ感染防止のため書面開催及びメールでのやりとり  
月日／令和3年7月上旬～下旬

内容／①広報紙「ちばの博物館」146号の内容について

### ■第2回委員会

新型コロナ感染防止のため書面開催及びメールでのやりとり  
月日／令和3年10月中旬～令和4年1月下旬

内容／①広報紙「ちばの博物館」146号の内容について

7・9・10・11月、協会ホームページ行事予定の更新

2月上旬 広報紙「ちばの博物館」146号編集会議予定

## 編集後記

『ちばの博物館』146号をお届けいたします。加盟館園の皆様には、原稿の作成や情報提供にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の日本での流行から2年以上が経ちましたが、未だにその影響は続いております。加盟館園の皆様におかれましても、日々の運営の中で様々なご苦労が生じていることと思えます。本号では、新型コロナウイルス感染症の影響と対応について、5つの館の報告を掲載しております。一日も早い終息を祈るとともに、本会報が皆様のご参考になることを願っております。 (柏女)